

板橋保育園

4歳児保護者会

板橋区立中根橋小学校 2026.2.18

板橋保育園の4歳児の保護者会に校長が伺い、保護者会の皆様のご質問の答えしました。



Q:幼児教育を個別で受けている子と受けていない子で差が出ると思いますがどう対応していますか。

A:先日、私の娘の友達が5歳の子供に家庭教師を付けているとの話を聞き驚きました。

幼児教育は保育園・幼稚園以外に講師と一対一で学んだり、また、〇〇教室など音楽やスポーツ、英語・絵画・野外体験をしたりする教室に通わせたりする家庭もあるそうです。

この質問をいただき、幼児教育のホームページを調べてみたら、メリットとして、

- ・遊びを通して左右の脳を刺激する
- ・認知能力と非認知能力を育てるとありました。

【右脳・左脳】

左脳は、言語能力、論理的思考、物事を筋道立てて考えることなどが得意です。

右脳は、直感、感性、創造性、空間把握能力、音楽的能力、感情などを担うと言われてしています。

何より左右の脳をバランスよく使うことが大切です。そのために、両手や利き手ではない方も使うとよいとされています。

【認知能力と非認知能力】

認知能力はテストで数値化できる知的な能力認知能力は学力やIQ

非認知能力は数値化しにくい心の能力を指します。協調性や自制心、意欲などです。

この質問に対して結論は、どこの学校も特に対応はしていないと思います。小学生なら学習塾に行っている・行っていないに対応していないのと同じです。学校では塾に行っているのを前提にして授業は行いません。どこの学校も教科書を使いながら授業を進めています。

確かに、幼児教育を個別で受けている子と受けていない子で差はあると思います。学校では、教科書での学びと共に体験活動を含め様々な教育活動を計画的に行っています。何より学校は様々な子供が学んでいることが最大のメリットです。

今、多様性がクローズアップされています。多様性はしなやかで強いです。自分と異なる人を理解し、協働する力が育つのが学校です。学校は教育の大きな使命をもっています。

Q:外国籍のお子さんも増えていると思いますが同じ教室で同じ学びをしていますか。

A:もちろん、外国籍の子供も机を並べて学習しています。日本での生活が長い子供はほぼ支障なく日本人の子供と変わらずに授業を受けています。

しかし、日本語の習得が必要な場合は、教室での学びが理解できるよう日本語教室で週1回 2 時間程度の指導を受けています。日本語教室がある学校は、このあたりでは、板橋第八小学校です。

学年が低いほど日本語の習得は早い傾向がみられます。

Q:近年、いじめが社会問題に発展していますが板橋区ではどのような状況ですか。

A:2011 年の中学 2 年生がいじめを苦しんで自死したいわゆる「大津いじめ事件」がきっかけとなり、2 年後に「いじめ防止対策推進法」が国会で成立しました。いじめ対応は、全国どこの自治体もこの法律に基づいて行われています。

板橋区でも毎年の教員研修、授業を通しての子供への指導、保護者会・学校だよりなどでの保護者への啓発を途切れることなく行っています。また、いじめ重大事案が発生すると、いじめの究明・対策を担う第三者委員会が開かれて原因究明と対応策を協議しています。

Q:板橋区の給食はメニュー、量は子どもたちに足りる量、バランスになっていますか。

A:私は中根橋小学校、舟渡小学校と区内

2 校を経験していますが、どちらもおいしいです。板橋の給食は質がよいと感じています。調理は民間委託ですが、各学校に栄養士がいて、しっかりと連携・管理し、おいしくて安全な給食を提供しています。

量につきましては、足りないということはありません。逆にどこの学校も残菜を少なくする取り組みを行っています。

また、給食は味とともに栄養価については細かく計算をしており、成長に必要なバランスのよい食事が提供されています。

Q:学童の現状と課題について教えてください。

A:あいキッズは、平成 21 年からスタートし、区内のすべての小学校にあります。児童館などではなく、学校の中にあるため連携がしやすいです。また、体育館や校庭も使用できますので、幅が広い活動も展開できるよさがあります。さらに、独自に体験的な講座など、子供の意見を生かしたものが企画もされているようです。

新 1 年生保護者会では、あいキッズの先生が来ての説明がありますので、直接お聞きになるとよいと思います。

交通安全

Q:最近、板橋区の小学生が車に轢かれて亡くなる事故がありました。PTA や地域の方々の安全見守りなどはどのような状況ですか。

Q:小学生の自転車運転でルールを守っていない子を見かけることが増えてい

ますが、小学校で自転車交通学習などしていますか。

Q:自転車交通学習などしていますか。

A:昨年末の区内での小学生の死亡事故は痛ましい限りです。下校途中、信号のない交差点での事故でした。

本校では、登下校時は学童擁護員が2か所の通学路に立っています。さらに毎朝、地域のボランティア（スクールガード）の方が旗を持って、子供たちに声をかけながら安全を見守っています。もう20年以上やってくださっている方もいます。その方たちの活躍で、PTAの旗当番はありません。しかし、毎年、PTAと警察・学校で通学路点検を行い、死角になるところなど、改善すべきところの確認をしています。

子供の事故で一番多いのが自転車での飛び出しです。学校では全学年を対象に警察官による交通安全教室を低学年・高学年に分かれて実施しています。また、4年生を対象に自転車の乗り方の実技指導を校庭で行っています。指導は板橋警察ですが、保護者にお手伝いをお願いします。

自転車の事故は絶えません。ご家庭での指導・声かけが有効だと思います。

Q:ステップアップ教室について、宿題の頻度、授業の進み具合、何が最低限出来ほうがよいですか？

A:ステップアップ教室とは特別支援教室です。以前は情緒の通級学級と言われ、発達障害がある子供への専門的な指導をしています。

人とのかわりが苦手、こだわりが強

い、自閉的な傾向、多動など、一人一人、その子の特性に合った授業をします。およそ週1回、個別指導が1時間、集団指導が1時間、計2時間の指導が行われています。

以前は特別支援教室には保護者が設置されている学校への送り迎えが必要でしたが、今では特別支援の先生が各学校に週に1度行って指導しています。本校は板橋第八小学校から指導に来ています。板橋第八小学校の先生は、本校の他、板橋第一小学校、金沢小学校も担当しています。

今は、東京都のどの公立小中学校にも特別支援教室があります。そこでは国語や算数などの教科の指導は行いません。人との関わり方や自分の気持ちとの向き合い方を身に付けるトレーニングをします。ですから特に宿題はありませんし、授業の進み具合はその子に応じてです。また、一人一人の特性に合わせて指導を行うので、最低限出来てほしいこともありません。

保護者と担当の先生の間で共通理解を図るために連絡ノートやりとりが行われています。

ランドセル

Q:ランドセルの色はどんな色が多いですか。

Q:男女で分かれていますか。

Q:高額なランドセルも流行っていますが、持っている児童は多いですか。

Q:安価なランドセルだから、いじめられるというようなことはありますか。

A: 私には2歳と0歳の孫がいます。是非、ランドセルは買ってあげたいと思います。祖父母なら誰しも、いいもの、高いものを買ってあげたいとも思うものです。

先週、1年生の教室に行って、ランドセルの市場調査をしてきました。男子はほとんどが黒もしくは紺、女子はパープル、水色、キャラメル色、ピンク、赤、ベージュと様々でした。色は8割くらいが自分で決めていました。6年生の教室でも同様でした。

ランドセルの値段は見てもよくわかりません。何より、1年生の間は、交通安全の黄色のランドセルカバーを付けているので、色もほとんどわかりません。ですから、安価なランドセルでいじめられることも起きません。

また、ランドセルでなくてもよく、ロッカーに入る大きさのリュックでも構いません。

Q:まだひらがなの読み書きでも不安があるのですが、どの程度の学力を身につければ良いのでしょうか。

A:自分の名前が読めて、書けるだけで大丈夫です。簡単な「し」や「つ」などの字から、時間をかけてゆっくり指導していきます。却って書けない方が、変なくせが付いていなくて、正しい字が書けるようになるものです。